

令和3年度 学校評価 自己評価書

あま市立七宝北中学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

- 校訓 剛健－強く 正義－正しく 仁愛－優しく 創造－新しく
- ア 心身ともに強くたくましく、最後までやり遂げる生徒を育てる。
- イ 深く考え、連帯意識をもち、正しく行動できる生徒を育てる。
- ウ 心優しく節度ある、心情豊かな生徒を育てる。
- エ 自ら学び、新しく、共に考え、学校文化を創り上げる生徒を育てる。

(2) 本年度の重点努力目標

- ア 学習の充実
 - ・ 基礎・基本から個別・発展へつなげる。
 - ・ 授業を基本にして、しっかりとした学力を身に付けさせ、個々の学力の伸長を図る。
- イ 豊かな心づくり
 - ・ 基本的生活習慣の確立から、生徒のモラル意識の向上と他者への思いやりを図る。
 - ・ 学校行事などの体験を経験化していくことで、自己実現を図る。
 - ・ 人権に対する意識を高め、人とのつながりを大切にし、学級・学校づくりに生かす。
- ウ 地域連携・小中連携
 - ・ 地域に関わることで、自分と地域との関わりについて考え、地域の一人であることの自覚を図る。
 - ・ 小中連携を深め、児童生徒に対しての指導の共通化・共有化を図るとともに、児童生徒の交流活動を推進し、中学校に向けての不安を軽減する。

2 自己評価の実施体制

- (1) 調査時期 令和3年12月17日～令和3年12月23日
- (2) 調査項目 別紙アンケート参照
- (3) 調査対象 有効回答者数／対象者数
 - 生徒 136名/144名、保護者 113名/133名、教職員 17名/17名、地域住民 56名/56名
 - 合計 322名

3 調査結果 別紙アンケート結果参照

- * 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった行事等に関連する項目については、アンケートを中止した。

4 考察

(1) 全体を通して

「学校での学習や生活を通して、自分が/子どもは成長していると思う」の項目では、90%程度の生徒・保護者が肯定的な回答をしている。また、「教育相談や教育相談アンケートにより、ふだんの自分を振り返り、悩みや課題について相談することができる」の項目では、86%の生徒が肯定的な回答をしている。さらに「子どもの生活について、気になることや心配事があるとき、学校に相談できる」と94%の保護者も回答している。「みんなで一人の生徒を育てる」という学校経営の基本方針が教職員間で共通理解が図られ、生徒や保護者に寄り添った個に応じた指導の積み重ねが安心感につながっていると考えられる。

(2) 職員アンケートより

職員は、基礎・基本を大切にしたいわかりやすい授業を目指し、授業に取り組んでいる。教育のICT化に向けた授業において、タブレット端末などを積極的に使用する職員が増え、効果的な活用の工夫を進めるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に向けた取組に努めるとともに、職員の研修も進めてきた。

交通安全については、下校時には全職員で生徒たちを見送るなど、指導の徹底を図ってきた。今年度は、登下校時の通学路を変更し、さらに安全な登下校時の行動について指導を行った。

(3) 生徒アンケートより

授業で話し合い活動については、83%の生徒が進んで取り組んでいると回答している。特に、89%の生徒が道徳の授業においても進んで取り組んでいると回答している。授業において、多様な意見に触れ、思考を深めていく授業展開の工夫に努めてきた。一方で、授業を理解するために、分からない時に質問することができている生徒は64%と少ない。話し合い活動についてはさらに内容を充実させ、分からないときは周りの友達や先生に質問しやすい環境を整えるなどの手立てを考えていきたい。

毎日の家庭学習や授業や各教科の宿題への取組は、昨年からきちんと取り組んでいる生徒とそうでない生徒の手立ての差が出てきている。与えられた宿題だけでなく、自ら求めて勉強する生徒の育成を目指したい。

(4) 保護者アンケートより

家庭学習においては、生徒と保護者の意識に隔たりがある。家庭での学習の在り方について教育相談や三者懇談の場などで、助言を行い、取組が不十分な生徒に対しての支援について、職員間で共通理解をして働きかけを行ってきた。

アンケートでは、90%を超す保護者の方が子どもを通わせたい学校であると回答している。この信頼に応えられるよう開かれた学校づくりに努めたい。

(5) 地域住民アンケートより（令和4年度入学予定の6年保護者・学校運営協議会委員）

「子どもを通わせたい学校である」と答えている6年生保護者や地域の方が94%いる。七宝北中学校に対して、好意的に見ていただいております。生徒の生活態度もよいと感じている方が多い。一方で、学校環境がきちんと整備されていると回答された方が昨年より減少している。豊かな人間性を育み、安全で健康な生活を営んでいくことができるように課題解決に努めたい。

5 成果

学校での学習や生活を通して、自分が成長していると考えている生徒が多い。小規模校であるため、教員が生徒一人一人に目を配り、授業や学校行事、部活動など様々な場面で多くの教員が関わることができることが大きな要因であると考えられる。

また、決められた時間に対して余裕をもって行動し、けじめある生活を送っている生徒が多い。日頃から家庭と学校が連携して子どもを育て、子どもの変化を見逃さないよう、相互が密接な関係づくりに努めていることが成果としてあらわれている。自分の子どもだけでなく、同学年の子、七宝北中の子といった視点で声かけをしてくださっている保護者、地域の方の存在は大きい。

6 課題

- (1) 小規模校ならではのよさもあるが、穏やかで競争心がなく、困難に立ち向かうことやストレスに対する耐性が弱い傾向がみられる。また、前向きに学習に取り組む生徒が多いが、十分に理解しないまま、分からないところを質問できていない生徒もいる。
- (2) 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地域ボランティアに参加したり、校区美化活動を実施したりすることができなかった。地域に密着した取組ができるよう地域の方々と連携して計画を進めていきたい。
- (3) 交通安全指導については、多くの生徒は交通規則を守って登下校しているが、自転車の並進やスピードの出しすぎ等もある。通学路を見直し、安全に登下校できる通学路に変更したが、大事故にはつながらないものの接触事故もあり、さらに指導を強化していく必要がある。

7 改善策

- (1) 教員が生徒としっかり向き合い、質の高い授業や個に応じた指導を行っていくために、学校全体で組織的に、教員の担うべき業務の適正化を促進する。
- (2) 今年度、学校運営協議会において、コロナ禍でも実施できる学校支援について話し合いを行った。環境整備として、除草活動、七宝地区の花である水仙の苗を校内に植えるご提案や学校前の道路に横断歩道を設置する要望、地域の一員として防災を学び非常時に生かす体験学習などの様々なアイデアをいただいた。今後も、実現に向けた計画を進めていきたい。
- (3) 交通事故や学校事故の防止に向けて、PTAの役員とも協力して、交通指導を進めてきた。自転車の乗り方や歩行に対する危機意識を高めたい。